

# 小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	22	施策名	商業・サービス業の振興	
小施策コード	22-1	小施策名	魅力ある商店街の形成支援	
小施策 主管課等コード	135000	小施策 主管課等名	経済企画課	
評価責任者名	小原 勝博		内線番号	3710
評価シート作成者名	高橋 博文		内線番号	3711

## Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
卸・小売の年間販売額*	↑	億円	10,724	10,220	—	11,300	11,800
サービス業の事業所数*	↑	事業 所	4,639	5,207	—	4,900	5,100

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

\* 28年度の経済センサスの調査結果は30年3月に公表されるため，28年度実績は空欄となっている。

## Step 2 小施策の全体像

### 小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
商店街等の団体	商店街ににぎわいが創出される。
現状と課題	<p>景気回復の兆しが見られるものの、「まちの顔」である中心市街地をはじめ、各商店街、市全体の卸・小売の年間販売額や従業員数などが減少傾向にあることから、大型店や量販店にはないサービスや地域の特性を生かした魅力ある商店街や個店づくりにより、商店街の集客力を維持向上させる必要がある。</p> <p>また、岩手医科大学附属病院の移転後の跡地活用について、市民や商工関係者の関心が高まっていることから、中心市街地の活性化を検討する必要がある。</p> <p>高齢化の進展と相まって、地域によっては、徒歩で行くことができる距離に商店がない、あるいは、買い物に行くための交通手段がないなど、買い物の利便性が低下している地域があることから、地域や事業者と連携して対応する必要がある。</p>
取組の方向性	中心市街地の活性化に向けて、関係機関と連携しながら、来街者の増加などを図る取組を推進するほか、市域全体では郊外型大型店の進出や多様化する消費者ニーズに対応した、魅力にあふれた活気のある商店街づくりを推進する。

## Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
中心市街地の小売年間販売額	↑	百万円	68,272	64,247	71,632	71,700	75,100
中心市街地の歩行者・自転車通行量	↑	人	48,332	46,210	42,098	52,300	53,000

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げっていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

## Step 4 市民ニーズの把握

まちづくり評価アンケート（H27年度）によると、商店街で「買い物をほとんどしない」「買い物をしない」と回答した人の割合が過半数を超えており、また、商店街での買い物のしやすさに「とても満足」「やや満足」と回答した人の割合が約3割にとどまっていることから、商店街の魅力を向上させるため、より一層の施策の推進が求められている。

## Step 5 役割分担分析

### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担 比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	関連する事業や団体に対し負担金，補助金を交付することにより，商店街及び商工業の発展を支援している。	40
	国・県・ 他自治体		
	市民・ NPO	地元商店街を意図して利用する。	20
	企業・ その他	盛岡商工会議所において商工業の振興に資する事業を推進する。盛岡市商店街連合会において商店街活性化施策を推進する。	40

### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する  
 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）  
 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

各種事業を推進していくにあたって，市の補助金・負担金は重要な財源となっていることから，現状維持が必要であると考えられるが，各事業の内容については十分な精査を行ったうえで交付額を算定していく必要がある。

## Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

### 1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ 新地域カードシステムを，他の商店街エリアにも拡大することで，中心市街地の各商店街等の回遊性を高める。
- ・ 商店街等が実施するイベントの宣伝等を，ポータルサイトの活用や各イベント間での相互PRを行うことで強化し，商店街等への来街促進の取組みを支援する。

### 2 1の改革改善案の実施状況

（A：着手済，B：平成29年度に着手（予定含む），C：未着手または見送り）

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
地域共通ポイント事業の展開	免許返納にあたるポイントの付与などの実施	A
商店街等のイベントの宣伝の強化	イベント間の連携，地域共通ポイント事業の実施	B

### 3 2で挙げた取組状況がCの場合，その原因

## Step 7 成果・問題点の把握

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

中心市街地の小売年間販売額が前年より増加した。

#### (2) 成果をあげた要因

地域共通ポイント事業の展開等による新地域カードシステムの普及が要因の一つにあげられる。

#### (3) さらなる成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）

地域共通ポイントの定着を図ることなどにより、地域カードシステムを市内全域に拡大し中心市街地の各商店街等の回遊性を高めていく。

### 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策における現状の問題点

中心市街地の自転車歩行者通行量が伸び悩んでいる。

#### (2) 現状の問題点が生じている原因

中心市街地の商店街、個店の魅力が十分に発信できていない。

#### (3) 分析した原因の解決に向けた課題

- ・ 引き続き商店街等が実施するイベント等への補助を行い、商店街等への来街促進の取組みを支援する。
- ・ 中心市街地の商店街・個店の新たな魅力発信に向けた効果的な支援策について、各商店街へのヒアリング等を通じて検討を進める。

## Step 8 小施策と構成事業の関係性

### 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

小施策との結びつきは強く、重複もしていない。

### 2 1で記載した事業についてその理由

### 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

## Step 9 Step 7, 8を踏まえた改革改善案

平成29年度中に策定する商業振興ビジョンにおいて、課題解決に向けた改革改善について、関係団体からの意見を踏まえて検討をする予定である。